

## 第2回 第3次江田島市総合計画審議会 議事録

### ■日時・場所

日時： 令和5年11月8日（水） 10:00～

場所： 大柿市民センター 集会室

### ■次第

1.開会

2.会長あいさつ

3.協議事項

(1) 江田島市をとりまく現状・課題分析

(2) 各種作業結果の報告について

(3) 江田島市の将来像・まちづくりの方向性に関するキーワード

(4) 策定スケジュールについて

4.その他について

5.閉会

### ■会議風景



■参加者

\* 敬称略・順不同

属性	氏名	所属	出席
委員	藤谷 吉秀	広島県地域政策局中山間地域振興課 課長	出席
委員	永井 匠	広島県 DX 推進チーム 政策監	欠席
	森田谷 智昭	広島県 DX 推進チーム 参事（上記代理出席）	出席
委員	前川 昌士	広島県健康福祉局医療介護基盤課 担当監	出席
委員	長坂 睦子	江田島市教育委員会 教育委員	出席
委員	濱谷 一眞	江田島市自治会連合会 会長	出席
委員	高先 泰弘	江田島市 PTA 連合会 副会長	出席
委員	森下 恵子	認定こども園保護者会 代表	出席
委員	森藤 清彦	安芸地区医師会江田島ブロック ブロック長	出席
副会長	堂野崎 平	江田島市社会福祉協議会 会長	出席
委員	小原 正清	江田島市農業委員会 会長	出席
委員	吉岡 憲伸	江田島漁業振興協議会 監事	出席
委員	泊野 秀三	江田島市商工会 事務局長	出席
委員	中野 伸一	江田島市観光協会 事務局長	出席
委員	今井 雅敏	一般社団法人広島県観光連盟 経営企画・マーケティング事業部長	出席
委員	山縣 透	公益財団法人ひろしま国際センター 交流部長（兼）総務課長	出席
会長	上水流 久彦	県立広島大学 地域基盤研究機構長 教授	出席
委員	塚井 誠人	広島大学 大学院先進理工系科学研究科 社会基盤環境工学プログラム 准教授	出席

## ■記録

### 1.開会

－ 事務局より開会あいさつ（記録省略） －

### 2.会長あいさつ

会 長	本日は、本計画の肝になる会議になると思っています。 特に（3）江田島市の将来像・まちづくりの方向性に関するキーワードについては、皆さんから幅広く活発な意見をもらって活発な討議ができ、全体の方向性が示せるようになればよいと思っています。本日はよろしくお願ひします。
-----	--

### 3.協議事項

#### （1）江田島市をとりまく現状・課題分析

－ 事務局より説明（記録省略） －

委 員	確認したいのですが、医療施設が 29 施設と病院等の診療施設が 14 施設との記載がありました。病院と診療施設以外は何をカウントしているのか教えてください。
事 務 局	資料 No.1 の 11 ページをご覧ください。令和 2 年度において、病院数 4、診療所数 14、歯科診療所 11 を足して 29 という数字です。
委 員	資料 No.1 の 10 ページ⑦商業の状況にグラフがあり、同資料 20 ページの総括の〔産業・観光〕の部分で商業は販売額増加と記載があります。相違があるように感じますが、なぜでしょうか。
事 務 局	誤植で、正しくは製造業の販売額が増加しています。
委 員	小規模事業者は現状としては大変厳しい状況です。少子高齢化の影響もあり人口も減少しているため、販売額は減る一方です。高齢化で、事業を継承する方がおらず事業を廃止するということが起きているというのが現状です。
委 員	確認ですが、こちらの資料は各課に確認されていないのでしょうか。 資料 No.1 の 9 ページで農業等の状況について記載があり、オリーブについて触れられていて、19 ページでも事例として挙げられていますが、オリーブはそもそも産業品種なのかということです。この中ではおそらく明るい話題ということで挙げていると推察します。ここで収穫量を挙げると、オリーブの生産に関わっていない方がパッと見た時に、オリーブは収穫量が伸びているのだと良い目で取ってしまいますが、実態はそうではありません。そこは担当課と話をさせていただきたいです。 19 ページもそうですが、統計的には生産量は伸びています。しかしながら、オリーブ振興協議会という団体で、オリーブは産業品目として無理だと判断しています。そのようなものを取り上げるのであれば、別の品目を取り上げてほしいと思います。私はレモンがよいと思っていますが、そのあたりを検討してほしいと思います。
事 務 局	この資料は、先週開催した市役所の各部長で構成する策定本部会議で提出し、各

課へ確認をお願いして修正したものです。オリーブの部分については、基本構想の素案を作る段階で、担当課と調整をしたいと思います。

オリーブは、産業で稼ぐイメージの方が大きいと思います。そのような意味で、こちらで紹介していますが、次回の会議の基本構想を作る段階で、産業についてどういった方向を見せていくのかという話の中で調整を行い、見せ方を工夫したいと思います。

委員から話があった製造業販売額の増加部分ですが、企画振興課で統計調査を行いました。その調査とは資料 No.1 の 10 ページの経済センサス活動調査のことであり、製造品出荷額の数値を記載しています。

製造業は、素材の加工組み立て製品として利益を得る状態という中で、自動車・電気機器・医薬品・科学素材とありますが、そこに食料も入っています。

江田島市の場合、水産業で加工品の牡蠣やちりめんなどがある中で、製造業の出荷額が伸びてきている部分もあることが、統計上出ています。それぞれの業種としてではなく、トータルとして伸びているため、参考としてください。

委員 資料 No.1 の 9 ページ⑤観光業の状況で、“観光客はショッピングなどの都市観光のほか、”との記載がありますが、ショッピングのために多く来訪しているという認識がないため、その根拠があれば教えてください。

また、“「サイクリング」をはじめ、アウトドア目的の観光客が多い。”との記載があり、マリンレジャー等はあるのですが、どちらかというと術科学校に来る方が多数を占めているという認識です。

アウトドア目的の観光が多いという認識がなかったため、その根拠があれば教えてください。

事務局 ショッピングと記載していますが、都市観光の内訳としてショッピングが入っているということであるため、記載を改めます。都市観光の内訳の中身がわからないため、都市観光の目的として観光客数が一番多いということにしています。

アウトドア目的の観光は、サイクリングや海水浴や潮干狩り、そして釣りが多いということです。また、公園等のレクリエーション施設を使うということで、アウトドア目的の観光客が多いという整理をしました。

詳細な中身については、統計などがわからないため、記載の部分でそのように整理しています。

委員 資料 No.1 の 5 ページの分析の部分で、外国人の数字が全くないのはなぜでしょうか。外国人の方は令和 3 年度末で 600 人ぐらい江田島にいるとのことで、15 歳未満人口並みの方が住んでいます。それを踏まえて、産業部分にも多大な影響があると思いますので、まずは数字の部分から掴んでもらった方がよいかと思います。

委員 資料 No.1 の 15 ページと 18 ページの基盤という表記について、基盤の中身は大雑把に交通、公共施設、下水道等であるため、一般的な用語でいいですと社会基盤、もしくはインフラと呼んでいるものだと思います。基盤という表記は、普通なかなか使わないと思います。ここは、文言をどうされるか検討された方がよいと思いま

す。

15 ページの路線バスの利用者数の推移は、若干他の市町、広島市や呉市、東広島市などと比べると、特異な推移をしています。令和元年に大幅に伸びた後は、利用者数が戻らないのが通常です。ですが、江田島市はそうではなく、4 年前のデータより戻っています。路線バスが非常に重要な基盤、社会基盤の 1 つだろうと想像します。ただ、2 つ質問があります。

平成 30 年と令和元年の間になにかあったのでしょうか。なにか対策を行わないとこの状態にはなりません。路線を延長しサービスの拡充をするなど、それ自体はよいことかもしれません。ですが、18 ページでも基盤という表記で重要度・満足度の記載があり、ここでも基盤が上位に挙がってきていて、よい政策だと判断しています。

一方、17 ページで行政の財政力指数なども記載がありますが、交通インフラを向上させると、そこにお金が出ていくようになります。これは諸刃の剣でもあります。サービス度と満足度は上がりますが、行政に対しては不安が増すこととなります。そうなってくると、どのようにしてバランスを取るのかということも大きな問題になると思います。空き家の問題もそうなのですが、公共施設維持管理の問題です。そのあたりで、ここを将来的にどのようにコントロールするのが気になりました。

2 番目の質問はすぐに答えることができない部分もあると思いますが、平成 30 年から令和元年の間に急に 2 万人程度増加しているため、何か対策を行ったのかという点と、それを今後どうするのかという点です。

もう 1 点あります。資料 No.1 の 8 ページの年齢別産業人口がありますが、漁業の方は、農業の方や林業の方と対称的です。どこで切るかということもありますが、ちょうどその 30 代を指しているため、これで見るとわかると思います。同じ見方で下の方まで見ると、少し異常であり、理解できない部分がありました。T 公務が 20 代、30 代だけで 65% という数字であり、これは何を指しているのでしょうか。

想像するに教師の方たちだと思いますが、それにしても非常に若い方が多いです。高齢化とは全く反対で、これが何を指しているのか、起こるべき理由があるのかどうか気になります。かつ数もとても多く、1,828 名となっています。他のどの部分と比べても数字が一番多く、しかも年齢率も若いです。これは何を指しているのか、これに対して打つ手はあるのか、そして政策に反映できる部分はあるのか、考えがあれば教えてください。

事 務 局

平成 30 年から令和元年の路線バスの利用者数ですが、正直に言って、特徴的なことを何かしたかといいますと、やってはいないです。この時期にパスピーを導入しているので、そのあたりの利用のカウンターの仕方が変わったことが一因かもしれません。

また、公務の内訳ですが、海上自衛隊が入っていると思います。

あとは財政のことですが、おっしゃるとおり、江田島市でも大体年間 1 億円以上の額を公共交通に投じてきている状態です。そんな中でも、航路は縮小したりしています。路線バスについても、地域で暮らしていくためには、お店が多くあるよう

委	員	<p>な地域であればよいですが、お店がポツポツとある場所については、移動手段が必要だと思います。どこまでバランスを取るのかが問題ですが、市としては交通については極力維持していきたいと思っています。</p>	
委	員	<p>簡潔にいうと、特異な状況だと思います。バスの利用者が戻ってくるということが、他の市町にはない状況であるため、他の市町は苦しんでいます。ですが、もちろんその収支率を出していくこと、利益率は5%とか7%とか、わかりませんが、それでも戻るといことはニーズが強いという説明をされておかないといけません。財政が硬直化しているからよろしくないということになると、今度はやはりサービスを全部下げろという話になってきます。そうすると、今いわれたように、実施したくないことに手をつける必要が出てきます。</p> <p>江田島市という土地柄だからこそ力強いニーズがある、という説明をおこなった方がよいと思います。効率化は必要ですが、必要なものを削ることはそもそも都市計画ではない。その説明を確実に行えば、公共交通の維持は江田島市の宿命と考えて、確実に維持していくという方針を出した方が、特徴づけられると思っています。</p>	
委	員	<p>資料 No.1 の 5 ページの人口動態の転入転出について、若年層の男女の増減のデータがあれば教えてください。以前、違う議題の時に出た話として若年層の女性の方が若年層の男性よりも非常に多く転出していることがありました。そこが重要な課題であり、その数値が必要だと私は考えています。</p> <p>もう 1 点は、同ページの年齢 3 区分人口割合について、江田島市の方は平均寿命が低いのですが、なにか要因はありますか。</p>	
事	務	局	<p>男女の比率ですが、江田島市は海上自衛隊の人数が入るため、計算が難しいです。若年男性の 20 代、30 代が多いです。逆に高齢になると、女性の方が多いという状態です。他の地域に比べ、若年の男性と女性が他の地域に比べて顕著な差があるかという、そこまでではないと思っています。感覚的なものですが、そのように感じます。</p> <p>もう 1 点ですが、健康診断の受診率は県内のほかの地域と比べると、ほぼ最下位レベルです。健康を害していても、検診を受けていないため気づかず、悪化してから救急搬送されるというケースが多いと思います。</p>
委	員	<p>先ほどの、どの年代がどうなっているのかというデータは資料として必要だと思っているため、ぜひお願いします。健康診断や平均寿命についても、市としてどのような方向で対策を立てるのかを考えた時に、この要因が確実にわからなければ、対策の立てようがないと思います、そのため、そのあたりは傾向の分析も兼ねて、分析を行う必要があると思います。</p>	
委	員	<p>資料 No.1 の 8 ページから 9 ページですが、農業・漁業の近年のデータが少ないため、増やしてほしいです。①産業から③農業等の状況について、令和 2 年までしかありません。令和 3 年もあればほしい。特にひどいのが④漁業の状況で、平成 30 年までしかありません。</p> <p>漁業、農業の人口増減も変わってきており、販売の方も変わってきています。あまりにもデータが古いので、より近いデータを探していただき、それらを整理でき</p>	

れば、農業・漁業の状況がわかると思います。

もう1点あります。資料 No.1 の17 ページ、地域・行財政のまちづくりに関する重要度・満足度のグラフに、青の自治会などの地域活動への支援、赤の市民と行政の協働のまちづくり、と2つに分けられています。青と赤の内容の違いについて具体的に教えてください。

事務局 1点目のデータの更新が止まっていることについて、元々のデータは農林業センサスというもので、5年に1回の調査を行います。最後に調査を行ったのが令和2年のため、この表が令和2年で止まっています。5年おきの更新となります。漁業に関しては、漁獲量の推移と漁業経営体数の推移は海面漁業生産統計調査が元になっています。牡蠣の生産量と県内シェアについても、農林水産省の海面漁業生産統計調査を元にしてしています。実は、令和元年度以降は市町村データが公表されていないため、平成30年で止まっています。私たちもできる限りは、数値があれば整理をしたいと考えています。

2点目の地域・行財政のまちづくりに関する重要度・満足度ですが、青の自治会などの地域活動への支援に関しては、何らかの金銭を含めた市役所等の支援はあるのかという調査です。赤の市民と行政の協働のまちづくりに関しては、江田島市の行政と江田島市民と共同のまちづくりを行っていくことを大枠で質問したうえで、重要度はどうなるのかという調査です。そのような各調査の表現です。

委員 若い人も入ってきて動いているという事でもあるので、なるべく市の中で持てる情報を出して頂き、基本的な数値やデータというのが重要な材料になるので、最終版を作る中で検討して頂ければと思います。

委員 資料 No.1 の8 ページ、単位を統一して頂ければと思います。

## (2) 各種作業結果の報告について

### － 事務局より説明（記録省略） －

委員 資料 No.2 の問 23 あなたが暮らしていく上で、デジタル技術の活用が進んでほしい分野は何ですかという質問で、医療・健康が多いのが意外でした。現在、マイナ保険証を使う人は少なく、反対も多い中で、実際に当院へ来る患者さんでもマイナ保険証を使用されている方は10人以下です。そのような中で、アンケートでは31.2%となっています。デジタル技術に何を求めておられるのでしょうか。

事務局 資料 No.2 の速報版の29 ページ、アンケート表の中で元々のアンケート項目を掲載しているのですが、医療・健康の具体例として「健康診断チェックのオンライン化等」を上げさせて頂いているので、そこを求められて丸をされたのではないかと思います。詳細は分かりませんが、そのようなご意向があると思います。

委員 オンライン診療などそのような所も入っているのでしょうか。

事務局 オンライン診療などのイメージで記載をさせて頂いております。

委員 意外だという話でしたが、今回のデジタル技術の活性化が進んで欲しい分野という事で、令和2年に県政世論調査でも似た設問をしています。医療・介護が43.7%でダントツの1位でした。マイナンバーカードのイメージよりも、オンライン診療

等、そのようなことをイメージされて答えられているのかと、私たちとしては認識しています。言われたように、現場でのマイナンバーへの嫌悪感とは乖離があると同じように思っており、補足しました。

質問が大きく3点あります。まさにこの、デジタル活用が進んでほしい分野という部分で、医療・健康や行財政手続きなど非常に幅広くなるため、そのあたりは今後基本構想を考えていくうえで、あらゆる分野で、デジタル技術の活用という部分は考えてほしいと思います。

半面、5番目にデジタル化がよく分からない、関心がないという項目があります。市民アンケートを年代別に見ると、80代の方も答えられているため、やはりデジタルがよく分からないという声があるのだと思います。

基本構想なりを作って政策を進めていくうえで、特に高齢者の方だと思いますが、デジタルリテラシーの部分、スマホを使えばなんでもできるという支援をやはりあわせて考えていってほしいと思っています。

基本的には、IT企業が進出しているとのことなので、そのような企業に対して、今、高校生、小中学生に対してIT教育を行っているとのことですが、高齢者の方への支援もできるような、企業等と連携した支援を行うなどの考えがあるのか教えてください。

2点目は、市民アンケートと若者アンケートで、それぞれ江田島市の不満を聞かれているかと思います。

市民アンケートでは資料2の6ページ、若者世代アンケートでは資料3の5ページです。デジタル環境の普及状況という項目は、市民アンケートは8.6%、若者アンケートは24.4%と大きな違いが出てくる部分だと思います。分析は今からだと思いますが、感覚的にどのようなところで差が出ていると思われるか。そもそもの質問が、デジタル環境の普及とはどのようなものをイメージしているのか、改めて教えて頂けたらと思います。

事務局

高齢者の方への支援は、江田島市で今行っているのは高齢者の方へのスマホ教室です。そのような方にまずはスマホの使い方を浸透させる支援を行っています。

どのような分野でデジタル化を行うのかという点については、基本使いやすくなれば、おそらく使われるようになるのではないかという結論です。強引にデジタル化を行うというよりは、高齢者の方が使いやすいという観点からいろいろ進めていく必要があると思っています。

市民の方と若い方とのデジタル環境の普及の認識の違いは、日頃デジタルに接する機会が多いか、少ないかということで、理解に差があるのだと思っています。

また、デジタル環境の普及イメージですが、一応例示的な内容を書きましたが、先ほどもあった遠隔診断など、そのようなイメージで、デジタル環境の普及がまだまだ進んでいないというご意見をもらっている点については、そのようなイメージで見てみたいと思います。

委員

1点目は、江田島市内には普通の病院や歯科などいくつかありますが、現在マイナンバーカードを利用して、健康保険証として使える病院は何件ありますか。

2点目は、市民アンケート18ページの問15の「第2次江田島市総合計画」につ



いてはご存じですかという設問に対して、とんでもなく残念な結果となっています。読んではないが見たことはある、計画があることは知っている、全く知らない、これは知らないことと同じです。これは残念です。

総合計画を江田島市民が知らなくて、江田島市がどのような方向に向かっているのか、よくなっているのか悪くなっているのかもわかりません。このようなことは、1つは反省として見る必要があると思います。この3つをあわせると87%です。87%はほぼ90%に近いので、とんでもない悪い数字だと私は感じます。

次の20ページの間20のまちづくりに興味がありますかという設問について、これも今と同じようなものですが、興味はあるが、参加したことはない、興味はあるが、参加したいとは思わない、興味はないの3つをあわせると63.7%です。3分の2の方が、まちづくりに興味がないといっています。これは単純に見た場合です。これを見ると非常に残念な結果です。自治会でも反省しないといけないと思いますが、行政も含めて、どうしてこのような状況になったのか、これも確実につかまないといけないと思います。江田島市が活性化することはまちづくりに非常に大事な部分です。

事務局

2点目の質問の、調査票の18ページの間15の総合計画を全く知らないという点と、20ページの間20のまちづくりに興味はあるが、参加したことはないなどをあわせると、トータル47.3%という点については、これは正直私たちもアンケートで聞きたいと思い、聞いてみました。委員が仰ったように、市としても反省すべき点だと感じています。

また、18ページの間15の総合計画の周知については、今回の総合計画策定だけではなく、市民の意識の醸成も図るという部分で、作業を考えています。もちろんワークショップなども行いますが、コンセプトブックということで、市民の意見を踏まえた市のまちづくりに関する流れなど、そのような部分も含めたコンセプトブックというものも作り、これから意識醸成、知ってもらう作業も考えています。

また、最終的には、総合計画が完成した際のお披露目会、仮のタイトルですが、どのような思いでこれを作ったのか、市民の方々とイベントではないですが、そのような形で最終的に市民の方に知ってもらうことも含めて、計画しています。

1点目の質問のマイナンバーカードが使える病院数については、私たち企画振興課では、現段階では把握していません。

委員

私から、教えてほしいということではなく、これは速報版のため、改めて出してほしい点について伝えます。

1点目は、この市民アンケートは回答数が、20代、30代の方の数が少ない、40歳代も少ないと考えた場合、この回答内容はほぼ50代以上の方中心の考えということになるため、世代別にどうなっているのか分析することは必要だと思います。

特に子育て世代や、今から結婚なども考えてくる、20歳代、30歳代がどう考えているのか。その点がわからないと、なかなかこのまちで暮らしていきたい、こどもを産みたいという夢を語るができないと思うため、そのあたりを出してほしいと思います。

2点目は、市民アンケートで1点気になった部分は、やはり江田島市の特徴、特

別な部分は、自衛隊の方がいらっしゃる部分だと思います。そのような方を入れた場合と入れない場合でどう違ってくるのか、正直にいうと気になっている部分があります。そのあたりの、市民の方の意識と少し違う部分があるのかなど、回答した職業で、わかればそのあたりの補正が必要だと私自身は感じています。

3点目は、若い方、18歳などの世代と、子どもたちと、この市民アンケートの中で比較した時に、何がわかるのかということも踏まえて、データ分析をしてほしいと思いました。

特に感じたことは、若者世代アンケートだと8ページの間8、市民アンケートだと不満な点、困っている点だと6ページの間7だと思います。これで見えていくと、非常に困っている点、私が思ったことの中で言えば、例えば、やはり若者世代の場合は、賑わいが無い、就職先・企業がない点などを挙げています。遊びがない点もありますが、この先仕事などをどう考えていくのかという部分も大きいと思いました。

一方で、市民アンケートでは、生活が不便だという点があると思っています。その違いをどう考えるのかという時に、15～18歳の子が、大学進学もあり、必ずしも江田島市にいてくださいというわけではありませんが、ここで仕事をするということに対して、現実的に夢を描くことができるような施策を作らないといけないと思います。

その仕事のあり方も、今大学生を教えていると思うことは、すでに私たちの感覚とは違って、単に企業で働きたいだけではなく、様々な働き方を考えています。それこそ、ユーチューバーでもよいという方もいる時代です。そうすると、そこで考える仕事は、やはり本当は場所にとらわれない、様々な要素があると思います。

そのような、例えば子どもたちの働き方に対する、確実にイメージできるように施策も打っていかないと、ますますここではない場所で働きたいという意識を持ち、戻ってくる機会がなくなってしまうと思います。そのため、そのあたりも踏まえて、考える必要があると思いました。

### (3) 江田島市の将来像・まちづくりの方向性に関するキーワード

#### － 事務局より説明（記録省略） －

委員 私もこの委員に就任する時、これからどのようなかたちで意見を発言していこうかと考えていました。はじめに思ったことは、やはり資料5の5ページ、『市民』が考える市の魅力・方向性の部分で、理想の暮らしのイメージでは、若者が住みたいと思うようなまちづくりというキーワード、そして4ページの産業・観光の将来になってほしいまちの姿・イメージの部分で、事業者や団体の方が思っている、「あそこで働く人たちは楽しそう」というキーワードが1番大事だと思います。

特に、若い20代、30代、未婚の方や子育てをしている方もいると思います。まだそのような生活が安定したということができない若い人たちが、やはりこの、人口も減っていき、有害鳥獣も増えていき、住みにくい部分もありますが、若い人たちが、「江田島っていいよね」「江田島に住んでよかったね」ということができるような施策、計画が必要だと思います。

どこまでそれができるのかはわかりませんが、もう少し若い人たちの生活実態を

知る必要があると思います。所得の問題もあります。最近テレビ、ニュースで、おそらく江田島市でもあると思いますが、ヤングケアラーなど、私たちが若いころには老人の介護なんて考えたこともなかったですが、今はすでに若いうちから考えさせられています。そのような実態を確実に洗い出してもらい、若い人たちが本当に、これから江田島市に住んでいくうえで、夢を持つことができるような計画にしてほしいと、これを読んで改めて感じました。

委

員

私は1年半くらい前に、縁もゆかりもないですが、大阪から江田島に移住しました。その理由として、今このアンケートの中で、1番トップに挙げられている、自然環境の豊かさという部分に惹かれました。実家は広島市内ですが、やはり子どもが小さなうちは、自然環境が豊かな場所でのびのび育てたいと思い、江田島に住むことにしました。

江田島に実際に来てみると、自然が非常に豊かでよいと思いましたが、こども園に通うと、いくつか思う点がありました。移住したいと思う1つのきっかけとして、やはり若い世代の方たち、働く世代の方たちが転入できる仕組みといますか、魅力あふれる江田島という点で考えると、オーガニック給食だと考えます。

問い合わせして聞いてみると、江田島産の野菜を多く使っているとのことですが、やはり農薬は、子どもが小さいうちは、できるだけ摂取させたくないという気持ちがあります。周りのお母さんたちや、広島市内の友人に聞くと、そのようなオーガニック給食があれば、移住を考えてもよいという意見を聞きました。そのような体に入れる食という部分にも、意識を向けてほしいと思います。

ちなみに、こども園の給食のおやつは、ぼたぼた焼きやグリコなどで、1歳の子が食べるようなおやつではないと日に日に感じていたため、意見を伝えました。そのような食、そのような部分を1つ検討してほしいです。

また、働く世代の方に転入してほしいという思いが、私の中にあります。こちらに来て、1つ大阪と違う点が、医療費の所得制限です。所得制限の撤廃を行ってほしいです。

働く世代の方が税金を納めても、所得が高い方は、医療費が幼児だと2割、小学生以上だと3割負担です。基準のラインを超えると負担があります。

子どもが小さなうちは病気にかかりやすいため、病院に連れていく度に、所得がある程度あると500円以上かかります。そのようなこともあり、そこまでして江田島に行きたくないという意見もあります。そのようなところも考えてほしいです。

そして、江田島は自然が豊かな場所だと思い、実際に来てみましたが、こども園のプログラムだと、最近はお散歩などが増えてはいますが、身近に海や山があったりしますが、そのような場所での自然体験が圧倒的に少ないと感じています。せっかくこんなに自然が豊かな場所なのに、園の中で過ごす時間が圧倒的に多いという点が非常に印象に残っています。

そのため、小学校以上はさとうみプログラムなど、自然体験を行う機会が多いイメージですが、こども園は少ないイメージがあるため、そのような部分を、移住したいという人に対してのアピールポイントの1つとしてほしいと感じています。

最後ですが、図書館が切串にない点です。他の図書館は、三高や中町、こちら大

柿にもあります。ですが、切串は少し離れた場所にあり、そのような教育施設が少ないです。そこは皆平等な教育という点で、どのようなかたちでもよいため、造ってほしいです。

特にオーガニック給食は、是非考えてほしいです。

委

員

全体を通じて思うところがありましたが、アンケートや意見、課題などに向けて計画を立てられているのだと思いました。ぜひ確実に今後も意見を募ってもらい、計画を立て、魅力ある江田島市づくりにしてほしいと思います。

一方で、私も素人で勉強不足なのですが、そのようにするためにはどうしてもお金が必要だと思います。市の財政といいますか、歳入が上がるような仕組みが、絵に描いた餅にならないように、この計画をやっていくのかというところまでは、総合計画の中に盛り込めると、「こういうことがあるから、実際現実的だよ」と市民の方も生活の中で思っていくことができると思います。

私の勉強不足で、この中にあるのかもしれませんが、私にはそのようなにはで読み取れなかったため、そのような部分も盛り込んだ計画にできれば、市民の方に手に取ってもらえて、「しっかりその通り頑張っていこう」と思ってもらえると思いました。

私であれば、いろいろなところを派生させるために、今できることは、例えば、大柿高校から派生させていくようなことができれば、いろいろなところが付随して、ある程度課題が解決されてくることも出てくると、私個人としては思っています。子どもが高校生ではないため、実態がわからない部分もありますが、とにかくぜひこの計画が計画倒れにならないように、そのような仕組みも見えるような計画を作してほしいです。私も委員の1人ですので、作っていくことができるようになればよいというのが、私の率直な感想です。

委

員

私の個人的な意見でもありますが、この総合計画は、今後10年の江田島市の方向性、どのような方向に向かっていくのかということが、1番の課題だと思っています。その中でおそらく1番は、人口が減っていることだと思います。先ほどのデータの中でも、令和27年には10,000人ぐらいになっている状況が見えているという中で、やはり今私たち、島に住んでいる人たちだけでは無理です。

いくら子ども増やすといっても減っています。そのような中で、外から人に来てもらわないといけません。

そのために、江田島市がよい場所であることをPRするのが、このキャッチコピーだと思います。その中で、私が常に、前に関わった場所でもいいましたが、私たちが本を読む時には、たいていの人がある帯を見て買います。文庫本や新刊等は、帯を見て、「あっ面白そうだな。じゃあちょっとめくってみようか」と思います。そうすると、私たちは外にPRするにも、ネットの世代に、インターネットで江田島を検索してもらうためには、そのような関心のあるものを、キャッチコピーのようなものの中ですが、示していく必要があると思います。これは想像です。

では、核となる話ですが、例えば、自然が豊かな部分ですが、管理されていない田舎は、住みやすくないです。例えば、今問題になっている熊もそうです。江田島に行けばいます。そのような問題意識も持ってほしいです。そのような意味で、自

然が豊かだということです。そうでないと、例えば、子どもたちが、先ほど聞きました、散歩に行きます。ところが、今昼間イノシシが出ていて危ないです。そうになると、なかなかそれが自然豊かなのか、本当の意味で自然豊かなのかと考えると時に、そのあたりをよく考えて、豊かな自然というキーワードを使わないと危険だと、私は思います。

そのような中で、島は何で生きていくのでしょうか。産業や観光、そして商業、あるいは福祉、なんでもよいと思います。しかし、そのような中で、PR できるようなものを考えていく必要があると思います。

先ほどオーガニックの話もあり、一応農業関係の役員に就いているため、話したいと思います。

先般、給食素材として広く使われており、使ってほしいという話もありました。ですが、そこで一番ネックになる点が、それが給食であれば給食費の問題が出てきます。どうしてもお金が高くなります。生産者も赤字になるのに手を出すのは難しいです。儲けがなくてもいいけども出したい、という話もありました。その時に、儲けがなくてもいいとなった時に、例えば、江田島はきゅうりが県下一の産地であり、当然曲がったきゅうりも出ます。

ところが、給食センターからすると、曲がったきゅうりはコストがかかります。例えば、ピーラー等で皮をむいたり、ジャガイモでもなんでもそうです。そのような部分の問題を、そこは話し合いをしながら進めていかないと、それができれば道ができるのではないかと思ってもいます。

先般、ふるさと納税の返礼品の話があり、登録してほしいという話がありました。なぜかという、ふるさと納税の返礼品が島にないという話でした。私は立場上もあつたため、一応登録し、今その業者といろいろな話をしています。ということは、結構物があるため、そのあたりを話させてもらいたいです。私たちもできる部分は行っていきたいと思っているため、また紹介してもらいたいです。

委

員

私が1つ思うことは、第2次計画を見ていくと、冊子におとすと、このようないろいろな意見が多く出てきて、意見が出ていると思いますが、あまりにも多すぎるということです。概略版を見ても、皆さんが関心を持つことができるようなことがないです。そのため、ほとんどの方は関心がない、知らないということになるのだと思います。

私は、市長が「うちのまちをこうしたいんだ」ということをよくPRして、市長の意向を入れてほしいです。おそらく市長は「うちのまちはこういうまちにしたいんだ」ということで立候補していると思います。そのため、そのようなことを、例えば、私は福祉の分野のため、福祉を中心に行うであるとか、子育てを一番に行うなど、どの分野を見ても非常に重要です。

そのような中で、市民の皆さんが「あっ、そうだ」と思うようなことで、旗を上げるといいますか、やはり一番のメインを作らないと、あまり他地域の方は見ないと思います。地域の方も見ません。

例えば、ふるさと納税にしても、「あそこのまちは、泉佐野市なんかはすごいよね」というのを見ます。福祉分野でいうと、「どこどこのまちは非常に福祉が充実

している」、岡山にある総社市なんかはそうですが、福祉分野を市長が非常に推進していて、そのようなことを充実してということがあります。

そのため、そのような、全てが大事ですが、肝になる部分を確実にPRしていくことが必要だと思います。冊子もみても、市長の言葉が第2次にはありますが、ありきたりな「大事なんです」という言葉で、それを見て市民が「うちのまちはこうだ」とは思わないと思います。そのため、そのような、「こうだ」、「こうする」と、それを突出してもよいですが、それをなにかしかりした肝をつけていかないと、市民が賛同するというようなことは中々ないと、私は思います。

どの分野も、今いろいろな意見が出て、私もたくさん言いたいのですが、時間もないためすべてを言うことはできませんが、うちのまちは何をメインにするのか、この場でも議論しますし、市長の答申を受けて、こうしたいという点をPRしていくことができれば、市民の方の関心も上がってきますし、他の地域からの、そのような関心も上がってくると私は思います。

委員

キャッチフレーズに関する検討については、まだチャンスはあると思うため、検討いただければと思います。こちらの計画はマスタープランとなるため、あらゆるものに関連していくものになっていくと思います。同時に、先ほどまちづくりにほとんど関心がなく、このことを知らないという部分が非常に大きく、どうやって地域の方を巻き込んでいくのかということも焦点になっていたかと思います。

そのようなことを考えていった時に、非常に難しいですが、総合的な、マスタープラン的な要素と同時に刺さるような言葉といますか、要素がないといけないという、矛盾したようなものを作らないといけない状態にあると思います。

これは、原案を考えている方に任せるのは心苦しいですが、そのような部分を考えながら、ここで抽出されたものは、皆さんそれに対しての異論は多くなかったと思いますが、どのように表現していくのかという部分では、まだ工夫の余地があると思っています。

先ほどもいったように、「江田島市といえばここなんだ」といわれるようなもの、あともう1つは、これをやっていく中で、他の自治体でしたが、若者に注力してほしいという意見と、高齢者が住みやすくないといけないという意見が非常に対立し、結局どちらも入れたという話がありました。どのようなまちづくり、地域づくりを目指していくのかがやはり伝わるようなもので、パッとこれを読んだ時に、そのイメージがわかるようなことが必要だと思いました。

#### 4 その他について

事務局

12月に審議会を開催したいと思っています。

市民ワークショップのチラシも本日配布しています。裏面に本日締切とはなっていますが、私たちも様々な世代の方に集まって、意見をもらいたいため、締切は問わず、でき限り当日まで受付したいと思っていますため、参加をお願いすると共に、お知り合いの方に周知してほしいと思います。

#### 5 閉会

以上